

令和3年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書

【 小学校家庭 】

所 属 名 県総合学校教育センター 産業教育課
職名・氏名 指導主事 倉本 貴恵

【報告書のポイント】

■研究協議のまとめについて

■教科調査官による総括について

- ・学習指導要領に基づいた「小学校家庭科の目標」を確認すること。
- ・「指導と評価の一体化」における家庭科のポイントを確認すること。

研究協議①

「学習指導要領における新しい内容についての取組」

～A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」の授業の実際～

A 家族・家庭生活 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

解説P.29

(2) 又は(3)の学習を基礎とし、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習した内容と関連を図り、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどの学習を通して、課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことをねらいとしている。

研究協議①

「学習指導要領における新しい内容についての取組」

～A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」の授業の実際～

1 児童が主体的に取り組むことができる課題の立てさせ方について

- ・「誰のため」「何のため」という視点をもたせている。
- ・指導者の適切な働きかけが重要。「家族へのインタビュー」や「家庭生活を見つめる活動」を十分に行わせてから課題を設定させる。
- ・家庭科の学習のねらいを、学校のHPや学年だより、保護者会等を通じて家庭へ発信する。そして、家庭からの要望も把握しながら家庭と学校の共通理解を図り、協力体制を構築することが重要。

3

研究協議①

「学習指導要領における新しい内容についての取組」

～A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」の授業の実際～

2 今後の課題

- ・児童が追究したくなる、追究が持続するような課題設定が重要。教師の発問力を高める。
- ・コロナ禍の影響で地域との交流は難しい状況でも、社会の変化にも対応できるよう、問題解決学習を実践できるのが家庭科の強みでもあるので、自分たちの力でできそうな課題を設定し、実践することが重要。
- ・家庭に協力を求めることが難しい場合もある。その際、実践の場を学校や地域に設定することが考えられる。→学校内での共通理解、地域への情報発信

4

研究協議②

小学校における「指導と評価の一体化」のための学習評価の具体 ～「主体的に学習に取り組む態度」の評価の実際～

1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方

- ・どのような資質・能力を育成するのかを意識し、**題材をデザイン**することが重要。
- ・振り返りの質を上げるための工夫として、「**これまでの学習**、**今日の学び**、**これからの取組**」と、振り返りの視点を提示する。
- ・本時の評価規準を教師が明確にしておくことが重要。児童の記載内容を見てから評価規準を設定するのではない。
- ・ICTを活用したり、ポートフォリオを工夫し、**学びの変容を実感できるように学習のあしあとを残す。**

5

研究協議②

小学校における「指導と評価の一体化」のための学習評価の具体 ～「主体的に学習に取り組む態度」の評価の実際～

2 今後の課題

(学校からの声)

- ・ワークシートの記載内容で見取ると、児童の表現力の差で評価が分かれることもある。
→児童が**答えやすいような発問の工夫**。学校全体で「書く」習慣をつけていく。
教師の発問力を高める。
- ・自己調整している児童のイメージがもてない。
→児童が自分の力で成し遂げたいという気持ちが芽生えるような**授業デザイン**をする。児童の**つまずきや努力の跡を敏感にキャッチするために**、児童への励ましや声かけを積み重ねていくことが大事。

6

1 学習指導要領に基づいた「小学校家庭」の目標等を確認すること。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な**基礎的な理解**を図るとともに、**それらに係る技能**を身に付けるようにする。

知識及び技能

(2) 日常生活の中から**問題**を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、**実践を評価・改善し、考えたことを表現する**など、**課題を解決する力**を養う。

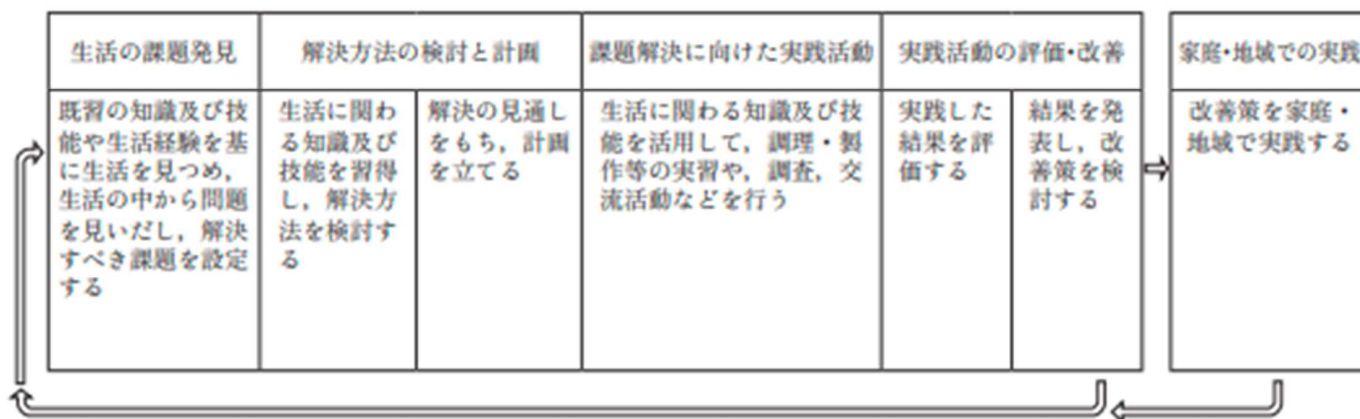
思考力、判断力、表現力等

(3) 家庭生活を大切に**する**心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、**生活をよりよく工夫しようとする実践的な態度**を養う。

学びに向かう力、人間性等

小中高家庭科の共通の学習過程の参考例

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の学習過程の参考例



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

1 学習指導要領に基づいた「小学校家庭」の目標等を確認する

「生活の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭, 衣食住, 消費や環境などに係る生活事象を,

協力・協働

健康・快適・安全

生活文化の継承・創造

持続可能な社会の構築

等の視点で捉え, よりよい生活を営むために工夫すること。

【小学校における視点】

「協力・協働」→「家族や地域の人々との協力」

「生活文化の継承・創造」→「生活文化の大切さに気付くこと」

9

2 「指導と評価の一体化」における家庭科のポイント

6 「『内容のまとまりごとの評価規準（例）』を具体化した例』を作成する際の手順①

＜参考資料＞ P.39～40

例：「B衣食住の生活」の(2)「調理の基礎」

「『内容のまとまりごとの評価規準（例）』を作成する際の『知識・技能』のポイント	
学習指導要領の「2 内容」	知識及び技能 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア）調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解すること。 （イ）調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し、適切に使用できること。 （ウ）材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解し、適切にできること。 （エ）材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできること。 （オ）伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできること。
内容のまとまりごとの評価規準（例）	知識・技能 ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ・調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切に使用できる。 ・材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。 ・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。
内容のまとまりごとの評価規準（例）を具体化した例	知識・技能 ・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ・調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切に使用できる。 ・材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。 ・伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 ・だしのとり方 ・菓の切り方 ・菓の入れ方 ・みその扱い方

22

知識・技能のポイント

- ・指導事項アについて、その文末を「～を（～について）理解している」、
「～を（～について）理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。
- ・「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成する。

参考資料P.38～P.41

10

2 「指導と評価の一体化」における家庭科のポイント

思考・判断・表現のポイント

6 「『内容のまとめりごとの評価規準（例）』を具体化した例」を作成する際の手順①

<参考資料> P.39~40

例：「B衣食住の生活」の(2)「調理の基礎」

「『内容のまとめりごとの評価規準（例）』を具体化した例」を作成する際の『思考・判断・表現』のポイント

学習指導要領の「2 内容」	思考力・判断力・表現力等
イ おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること。	
内容のまとめりごとの評価規準（例）	思考・判断・表現
	おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を具体化した例	思考・判断・表現
	<ul style="list-style-type: none"> おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。 おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について考え、工夫している。 おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 おいしく食べるために調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。

参考資料P.38~P.41

・基本的には、**教科の目標の(2)**に示されている学習過程に沿って、**四つの評価規準を設定し**、評価することが考えられる。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要がある。

- ①日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力は、その文末を「**～について問題を見いだして課題を設定している**」
- ②様々な解決方法を考える力は、その文末を「**～について(実践に向けた計画を)考え、工夫している**」
- ③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力は、その文末を「**～について、実践を評価したり、改善している**」
- ④考えたことを分かりやすく表現する力は、その文末を「**～について課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している**」

2 「指導と評価の一体化」における家庭科のポイント

主体的に学習に取り組む態度のポイント

6 「『内容のまとめりごとの評価規準（例）』を具体化した例」を作成する際の手順①

<参考資料> P.39~40

例：「B衣食住の生活」の(2)「調理の基礎」

「『内容のまとめりごとの評価規準（例）』を具体化した例」を作成する際の『主体的に学習に取り組む態度』のポイント

学習指導要領 2 内容	学びに向かう力、人間性等
	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、教科の目標(3)を参考にする。
内容のまとめりごとの評価規準（例）	主体的に学習に取り組む態度
	家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとして、生活を工夫し、実践しようとしている。
「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を具体化した例	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について工夫し、実践しようとしている。

参考資料P.38~P.41

・基本的には、**三つの側面から評価規準を設定し**、評価することが考えられる。ただし、これらの評価規準は、各題材の構成に応じて適切に位置付けることに留意する必要がある。

- ①粘り強さは、その文末を「**～について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている**」
- ②自らの学習の調整は、その文末を「**～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている**」
- ③実践しようとする態度は、その文末を「**～について工夫し、実践しようとしている**」

【報告書のポイント】

■ 研究協議のまとめについて

■ 教科調査官による総括について

- ・学習指導要領に基づいた「小学校家庭科の目標」を確認すること。
- ・「指導と評価の一体化」における家庭科のポイントを確認すること。

【出典及び参考資料】

- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』 文部科学省
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭』
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター